
環境思想・教育研究

2017年 第10号

◆ 第10号記念特集 21世紀と環境思想

[趣意文]	1
現代の科学・技術と環境思想の視座——〈農〉の復権と複雑系科学の意義	尾関周二 3
環境思想は何を語るべきか——進化心理学の視点より	丸山正次 11
「体内環境」を変革するために——身体内部のエコロジーについて	島崎 隆 17
自然との共生・再論——農業と健康を中心に	武田一博 23
共生社会理念と草木国土成仏思想の意義	亀山純生 33
ウィリアム・モリスの社会主義思想と未来社会像	三浦永光 40
Ecological Thinking and the Crisis of the Earth	John CLARK 48
The Role of Environmental Thought in the Twenty-First Century	Arran GARE 55
Water, Climate, and Peace: From Extractivism to Deep Ecological Commoning	Ariel SALLEH 61
Ecological Civilization and Ecological Citizens	Lingling GUO 66
The Environment: Certainties, Ambiguities and Human Ambitions	Massimo NEGROTTI (Translated by Julian LOCKE) 71

◆ 環境思想・教育研究会 第3回 研究大会「科学技術万能主義からの脱却」報告

〈環境思想フォーラム「科学技術をめぐる現代の課題」〉

生産活動における科学・技術の包摂と相対的分化	佐野正博 79
感性を育てる科学技術教育の可能性について——環境教育との交点から	吉田健彦 85
〈農〉をめぐる科学・技術と現代社会——緑の革命と遺伝子組み換え作物から考える	大倉 茂 90

〈シンポジウム「原発安全神話と科学技術の問い直し——原発避難の現実から考える」〉

シンポジウム「原発安全神話と科学技術の問い直し——原発避難の現実から考える」解題	尾崎寛直 96
チェルノブイリ原発事故被災地で進む被災地縮小政策——「原発事故の終了」というシナリオ	尾松 亮 99
避難者はいかに原発事故・汚染を認識し行動したか	早尾貴紀 109
福島原発事故の健康対策を考える	山川幸生 113
原子力関連施設の立地地域における合意形成の可能性の探求	澤 佳成 116

◆ 一般研究論文

「環境論的転回 (ecological turn)」とは何だったのか——21世紀環境思想の新たな地平を求めて	穴見慎一 120
「近畿型地域労働市場」下におけるボランティア的組織による農地維持 ——長野県宮田村「壮年連盟」を事例として	氷見 理 129
『動物のいのち』におけるエリザベス・コステロの振る舞いから考える交感と受傷性の倫理	熊坂元大 136
「持続可能性」概念に付随する時間認識の形式の再検討——「未来可能性」概念の導入の提起	太田和彦 144
「食」の人間学的意味の探究——人間学的唯物論と構造人類学を手がかりに	関 陽子 153

◆ 研究ノート

ネスとスピノザ——ネスの“Spinoza and Ecology”から	浦田沙由理 161
-------------------------------------	-----------

◆ 書評

尾関周二／環境思想・教育研究会編『「環境を守る」とはどういうことか——環境思想入門』	並木美砂子 166
尾関周二／矢口芳生監修『共生社会Ⅰ——共生社会とは何か』、『共生社会Ⅱ——共生社会をつくる』	水野邦彦 170
脱近代社会とは（大倉茂『機械論の世界観批判序説——内省的理性と公共的理性』）	片山善博 173
時代をつくる文化ラボ編『リアル世界をあきらめない——この社会は変わらないと思っているあなたに』	大倉 茂 175
浦島匡／並木美砂子／福田健二『おっぴの進化史』	水野邦彦 177
